



# 大野市教育委員会たより

令和元年10月24日発行 第29号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月15日(火) 午後7時～8時40分	次第	・1部 子育て講演(講師：久保教育長)
場所：あかね保育園		・2部 意見交換
対象者：保護者(11人)・保育士(11人)		

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎子どもは保育園で自由にさせてもらっているため、小学校に上がり、時間など型にはまることでうまく学校に慣れるか不安である。
  - ⇒■国の基準で、国語や算数などの授業を1年間に何時間しないといけないという決まりがある。規定された時間を行わないと未履修となり、法令違反になる。そのために時間割を決めて授業を行っている。子どもが小1プロブレムになるのは、その時間割にしばられ、慣れないという点もある。学校の担任は、いろいろな保育園から集まる子どもたちで学級集団を作ることに苦労しているが、保幼小(保育園・認定こども園・幼稚園・小学校)の連携を行っていることで、学級として成り立っていくのが早い。園児も小学校生活に慣れるのが早くなっている。
  - ⇒■あかね保育園では下庄小1年と交流をしている。学校に入る前には、学校見学会も年2、3回行っている。
  - ⇒◎年長になった時に交流を行っている。その他、小学校1年と交流する「遊ぼう会」も行っており、小学校と保育園に垣根がないように取り組んでいる。他にも小学校6年生が毎年、保育体験をするために保育園に来ている。
  - ⇒■7、8年ぐらい前から国が制度化し、幼保小の接続に取り組んでいる。
- ◎自分の時は1クラス20人で、先生に見てもらっていたという安心感があつたし、友だちと交流できた。阪谷小に入学予定であるが、複式学級のようにクラスの人数が少なくなると友だちの輪が狭くなる。出来れば1クラス10人から20人の間が良い。交流も出来るし、先生の目が行き届く。また、スクールバスで送迎されるとしても、最後は家まで1人で歩いて帰ることになり、家族の誰もが迎えにいけない状況で、送り迎えに不安がある。
  - ⇒■現在、再編計画の見直しについてどうするかを意見交換会で聞いているが、皆さんが一番心配されるのは登下校の距離と時間とその方法である。このことは特に慎重に考えていかなければならないと思っている。
  - ⇒◎小学校2校は減らしすぎである。最初は小規模でも良いので、どこかと再編し、徐々に再編していくのが良いと思う。中学校では部活動の選択にかなり制限があると聞いているが、どうしても入らないといけないのか。中学校1校となった場合、大会などで遠征があり、親の送迎などで負担が増えると思う。
  - ⇒■下校について話をする。郊外では、公民館が主体で放課後子ども教室を行っており、平日は午後6時まで子どもを見てもらえる。阪谷小は現在29人の複式学級であり、体育や音楽、図工などは2つの学年が合同で行っている。また、2学級以上ある他の学校と交流も行いながら、小規模校の課題の克服に取り組んでいる。小規模校の良さは、子ども1人1人に発表の機会が多いなどがある。
  - ⇒■部活動については、現在の陽明中では、校外のスポーツクラブで週3日以上、一生懸命頑張っている場合は必ず学校の部活に入る必要はないようになっている。例えば、硬式野球やサッカー、トランポリン、スイミングなどである。これからは、このような体制が加速していくと思う。
  - ⇒■放課後については、市街地の学校は放課後児童クラブ、郊外の学校は放課後子ども教室へ学校が終わった後、児童は行っている。最初30分ぐらいは宿題をして、その後は遊んだりして、保護者に6時までに迎えに来てもらっている。子ども教室では、地元の方などによる安全管理員とシルバー人材センターからの派遣職員で子どもを見守っている。また、夏休みなどの長期休業中には、子ども教室はやっておらず、児童クラブを利用されている方もいる。
  - ⇒◎学校が再編されると、放課後児童クラブはたくさん子どもを受け入れられるのか。
  - ⇒■スクールバスで地元地区の放課後子ども教室まで送迎するなどの検討をしていく必要がある。
  - ⇒◎子どもが、まちなか循環バスなどの利用も出来れば良いと思う。
- ◎小中学校が再編されると、現在の学校は撤去されるのか。それとも、放課後児童クラブのように、人が集える場

所とするのか。

⇒■現在の学校は、避難所に指定されている。防災計画上、体育館や校舎の一部を残していくことになると思うが、すべての学校を残していくかは考えていかなければならない。避難所以外に地域での活用があるかなども含めて検討していく必要がある。森目小は民間に売却し、福祉施設となっている。

◎中学校に荒れている子はいないのか。陽明中と開成中が交互に学校が荒れていると聞いている。

⇒◎昨年、陽明中では学級が崩壊していると聞いた。

⇒■生徒たちだけの責任ではない。

⇒◎荒れている子だけを集めるのは難しいのか。

⇒■無理である。当時の陽明中の生徒については、夏休みにラジオ体操に参加したり、しっかり挨拶をしたりしていると周りの地域の方々から聞いていた。中学生は、大人を斜めに見る年頃であるが、1人1人はとても良い所があり、それを地域の方々が認め、家族も見守っていた。当時の教職員も一生懸命対応していた。

◎ゆとり世代、さとり世代というが、今は、どういう教育方針なのか。子どもの芽をつぶさないように自信を育ててあげるといことは分かるが、ざっくりして目指すところが見えない。

⇒■ゆとり教育の時は授業時数も少なかったが、今は多い。多くなっている1つに、来年から5・6年生に外国語科が、3・4年生に外国語活動が入ってきている。時代に合った教育を国が打ち出している。これからはAIの時代に入り、自分たちで考え、作り出す教育が必要となってきた。そのため、1人1人が自分の意見をどんどん言って、意見を言い合うことで議論を深め、人間性を高めていく教育が変わってきている。

◎保育園では送迎で先生と直接会えて話ができる。学校は子どもたちが伝えてくれないと状況が分からない。学校のたよりだけでは伝わらないことがあり、不満がある。もう少し、学校の先生と保護者の情報交換が出来ないか。学期末ぐらいしか先生と話が出来なく、いろいろ聞きたいけど時間が限られている。

⇒◎保育園では、さらに連絡帳で連絡し合っている。

⇒■小学校にも連絡帳はある。情報交換は教職員の力量による所もある。学校公開日などでもっと情報交換できないかを学校に提案してもらえばよい。

⇒◎小学校で連絡帳を書いても返事もなく、スルーされる。

⇒■教職員は、朝や休み時間に連絡帳を見たり、返事を書いたりしている。返事で戸惑った場合は管理職に相談している。



◎学校と保護者との連絡手段で、メールやLINE（ライン）を利用している学校は、県内や全国にないのか。

⇒■緊急連絡などを学校からメールで配信することはある。

⇒◎1人の保護者が気になることは、他の保護者も気になることである。1対1のメールのやりとりより、LINEでのグループの方が効率的ではないか。

⇒■個人的には良いと思うが、LINEに入れない保護者もいると思う。

⇒◎ネットやスマホをもっとうまく活用して欲しい。

⇒■学校の欠席の連絡をメールでもしてもらおうかという、県教育委員会の提案があるが、学校現場では保護者と直接話をした方が良いということで反対している。アナログとデジタルでは、良い所と課題がそれぞれある。今後検証していく必要がある。

◎学校教育もすごく変わってきたと実感している。授業参観で、教科書を使わず、先生が出した主題について5、6人のグループがホワイトボードを使って、意見を出し合い発表し合っている。大人しい子には、意見を出したり発表したりしないといけなくて苦痛だろうと感じた。

⇒■来年の1月には、各小学校へ1クラス分のタブレットを導入する。話すことが苦手でも、タブレットで意見を言うことが出来るようになる。さらに教育現場は変わってきている。

⇒■発言することばかりが良いことではない。「他人の話をちゃんと聞いて、自分の中で考える」、「他人の話を聞いて、自分の考えを書く」ということも大切である。

◎学校再編は、地域の問題と学校教育がごっちゃになっている気がするので、分けて欲しい。子どものために、本当に良い教育環境はどのようなものかを最優先に考えて欲しい。例えば、プログラミング教育が始まるのであれば、その専門の先生が配置されるような環境づくりを考えて欲しい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

